

令和8年3月15日

保護者の皆様
地域の皆様

さくらの学び舎 世田谷区立笹原小学校
校長 吉田 健二

令和7年度の学校経営報告・自己評価報告

令和7年度の学校経営報告・自己評価は以下の通りとなります。

1 目指す学校

笹原小学校に関わる全ての人にとって信頼と誇りのもてる学校

【キャッチフレーズ】 みんなに「元気で」「笑顔で」「輝きのある」笹原小学校

- (1)子どもの元気・笑顔・輝き・・・「学校を大好き」「学校生活が楽しい」と感じている。
- (2)「保護者・地域の方々の元気・笑顔・輝き・・・子どもの「健康・安全・人権」を第一に考え、安心して通わせることができる。
- (3)「教職員の笑顔と輝き」・・・子どもに愛情を注ぎ、その成長に喜びを感じている。

2 今年度の重点目標への取組と自己評価

項目	主な取組	自己評価
学ぶことを楽しみ、主体的に学び続ける子どもの育成	<p>○「めあて」と「振り返り」を大切にした学習活動を通して、自己の学習活動を振り返って次につなげようとする「主体的な学び」の実現を図った。明確な学習目標の設定、学習状況の把握、個別の支援を行い、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得に努めた。</p> <p>○学習用タブレット端末を活用した単元・授業を日常的に実践し、「探究的な学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実を進めた。</p> <p>○「さくらの学び舎」における幼小中の連携や、地域・保護者の人材を活用したキャリア教室「ドリームプロジェクト」、商店街ペナント大作戦、学校花壇に花を咲かせよう等の学習を通して、「せたがや探究的な学び」を推進し、主体的に学び続ける力の育成を図った。</p>	<p>○児童アンケートでは、「先生は、課題(めあて)について、自分で考えたり友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」の肯定率が89.9%、「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」が93.0%、「私には、努力できることがある」が93.0%であり、授業改善や学習意欲の面では満足できる水準にある。一方、「学ぶことが楽しい」は76.0%で、やや満足の状況にとどまっている。</p> <p>○学ぶ楽しさを一人一人がより実感できる授業づくりや、つまずきや学習意欲に応じた個別の支援を一層充実させることで、引き続き「学ぶことを楽しみ、主体的に学び続ける子どもの育成」に取り組んでいく必要がある。</p>
人権意識(やさしい心、思いやりの心、多様性を尊重できる心)をもった子どもの育成	<p>○毎月実施する「あいさつ週間」を通して、すすんであいさつができる子どもの育成を図るとともに、いじめ、不登校、友達とのトラブル等については、全教職員と保護者・学校関係者との協力体制で、未然防止、早期発見、早期解決にあたった。</p>	<p>○児童アンケートでは、「自分のよさや友達のよさを見付けることができる」の肯定率が88.4%で、満足できる水準であった。また、「笹の子班活動を通して、上学年や下学年の子どもたちと仲よく楽しく活動することができている」は78.3%で、やや満足の状況であった。</p>

	<p>○笹の子遊び・笹の子まつり等の異年齢集団活動、地域の幼児・高齢者・障害のある方々との交流活動、中学校との連携等を通して、多様な他者への理解を深め、助け合う温かな心と人とかかわる力の伸長を図った。</p> <p>○「幼児との交流体験」「弱視教室通級児童との交流体験」「認知症アクション講座」等、地域や社会と連携した活動を通して、自他の人権・生命を尊重する心の育成に努めた。</p> <p>○発達上の配慮を必要としている児童を含む多様な子どもたちを全教職員で育てるという方針のもと、目の教室・すまいるルームと通常の学級の連携、外国人又は外国につながる児童等へのきめ細かな支援、職員夕会・生活指導夕会・校内支援委員会での情報共有を進め、インクルーシブ教育の推進と支援体制の充実を図った。</p>	<p>○保護者アンケートでは、「本校には、多様性を認め合う雰囲気がある」が65.1%、「笹の子班活動は、子どもたちにとって有意義な活動であると思う」が78.1%であり、前年より数値の向上が見られるものの、一層の取組が求められる項目もある。今後も、多様性を尊重する学校風土を維持するとともに、活動の意義や児童の育ちが保護者に伝わるよう発信を工夫していく必要がある。</p>
<p>心身ともに健康で、目標に向けて粘り強く努力できる子どもの育成</p>	<p>○「体育科授業の充実」「元気タイム」「体力向上週間(長縄跳び・短縄跳び・持久走)」等の取組を推進し、健康な体づくりと体力の向上に努め、すすんで体を動かす子どもの育成を図った。</p> <p>○新型コロナ流行時に身に付けた、うがい・手洗いの習慣化や、マスクの効果的な利用、せきエチケットの励行など、感染症予防対策を日常的に行えるよう継続して指導した。</p> <p>○学習や学校生活の様々な場面で目標をもって取り組み、ふりかえりを通して努力を積み重ねる態度の育成に努めた。</p>	<p>○年間計画に基づいて実施し、一定の成果があったものの、体力調査等の結果を見ると持久力等の項目になお課題が見られる。来年度も継続して実施していく。</p> <p>○健康面では、児童アンケートの「うがい・手洗いなど健康に気を付けている」の肯定率は73.6%で、やや満足の状態であった。一方、保護者アンケートの「子どもたちは、感染症の予防等健康に気を付けている」は58.2%で、家庭から見た実践にはなお課題が見られる。今年度は感染症流行期においても学級閉鎖が1学級にとどまり、一定の成果は見られたが、健康意識の一層の定着が必要である。</p> <p>○「目標をもち、その実現に向けて努力している」は72.9%で前年より数値が7ポイント低下した。さらに「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある」は66.7%で、満足できる水準には届かなかった。今後は、将来を見通した目標設定につながる小目標や計画づくりの指導を充実させることに取り組む必要がある。</p>